

2022年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修  
実践編『ELNEC-J 高齢者カリキュラム指導者養成プログラム』アンケート集計結果

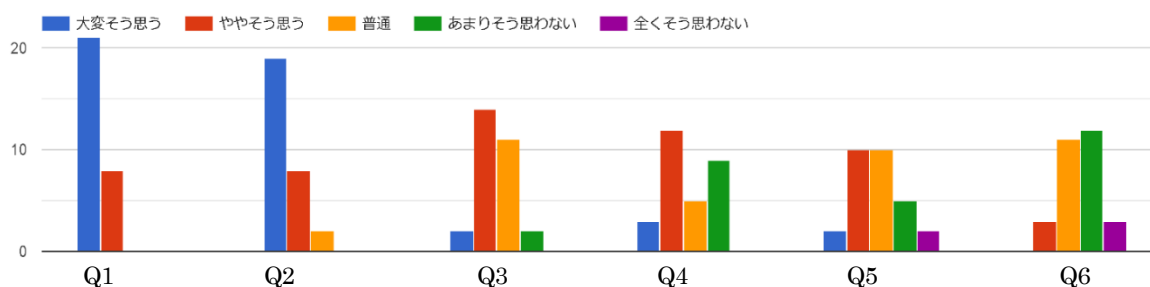
開催日 2023年2月25、26日（土・日）  
場所 慶應義塾大学信濃町キャンパス孝養舎405号室  
受講者 31名

性別	女性 27名	年齢	30代 5名	所属	病院 28名	老人看護専門看護師	19名
	男性 4名		40代 14名		施設 2名	認知症看護認定看護師	6名
			50代 12名		教育機関 1名	透析看護認定看護師	1名

看護師経験年数 平均 23.4±6.9年（最短10年、最長35年）  
高齢者ケアに携わった経験年数 平均 17.1±6.0年（最短7年、最長30年）  
専門看護分野の資格認定後の経験年数 平均 6.0±3.6年（最短1年、最長6年）

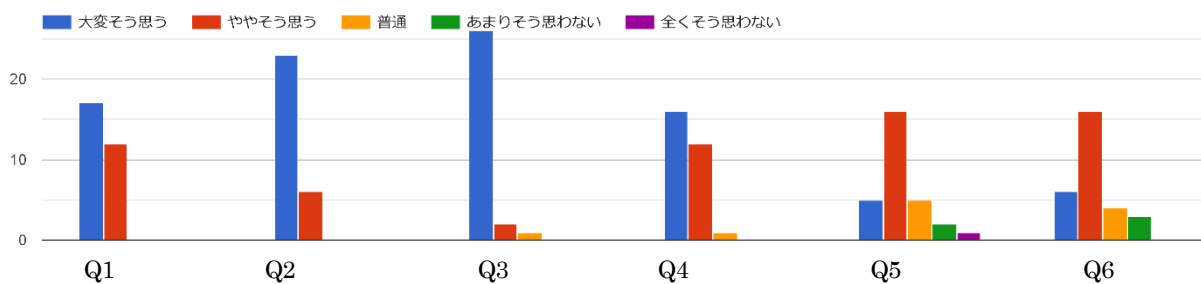
## 本プログラム全体について

### ELNEC-JG 開催・運営方法



- Q1 今回の受講によって、プログラムの開催要件は理解できましたか  
Q2 受講前と比べて、他のJG指導者らと共に開催していきたいと意欲を高めましたか  
Q3 受講前と比べて、他のJG指導者らと共に開催できそうだと自信を持ってましたか  
Q4 他のJG指導者らと共に開催していくことを不安に思いますか  
Q5 実施責任者として開催してみようという意欲はありますか  
Q6 受講したことで、実施責任者を務められそうだと自信がつかしましたか

### ELNEC-JG 指導者として



- Q1 受講を通じて自分の傾向について、振り返って考えることができましたか  
Q2 受講を通じて指導者同士のつながりを感じられましたか  
Q3 JGの理念実現を目指し、実践や教育活動を行うことを求められていることが理解できましたか  
Q4 受講前と比べて、指導者となって活動する意欲が高まりましたか  
Q5 受講前と比べて、指導者となって活動できそうだと自信がつかしましたか  
Q6 受講前と比べて、指導者として活動するには不安を感じますか

## この JG 指導者養成プログラムを受講してよかったことについて教えてください

(22 件の回答)

- 自分の考え方について研修を通して振り返ることが出来たこと。指導者として伝えるときに、どの様に伝えたら良いか。また自分に伝えられる実践をしているのか、について振り返りながら受講が出来たこと。対面だったので、久々に顔を会わせる仲間が居たため繋がりを感じる事が出来たこと。グループワークを通して新たな繋がりを作ることが出来たこと。
- 自分を知ることの大切さ、自分の中にある見方を認めていくことの大切さがわかった。
- 自分自身を振り返るきっかけになり、傾向も認識できました。自分の組織だけにいると悩みや諦め、ネガティブになりやすい状況ですが、色々な人達と話すことでポジティブな感情になり、交流を持つことの大切さを実感しました。また、理想とする指導者の皆様を見て、私も先輩方のようになりたい、頑張ろうと思えました。元気、勇気を貰いました。
- 日頃の自分の実践が漫然となっていたことを実感しました。
- 自分のものの見方や考え方を知ることができました。(まだ、すべてわかったわけではないので、今後も考え続けようと思います)。ELNEC-JG の理念を理解することができました。そして、そこがブレないように受講者の方たちにも理解していただく事がとても重要だとわかりました。とても素晴らしい研修であり、この指導者養成プログラムに参加できた事がとても幸せです。
- 指導する立場としての心構えや姿勢は、このプログラムだけにとどまらず何時でも大切な事だと感じたので、学ぶ事ができて良かったです。
- 根拠を伝えることが必要である事を再認識しました。
- 指導のポイントやキーメッセージ、運営など多岐に渡り指導者としての姿勢や高齢者看護の質の向上のために沢山の時間と労力を惜みず考えられたプログラムだということを実感できた。自分の傾向や考えを知り、指導者として、経験を積むその機会毎に内省しながら振り返ることの大切さを、1 日目のワークで学ぶことができた。実際にワークをファシリテートしてもらった場でも、伝え方や受講者の意図することをまとめたりする様子を近くで体験させてもらい非常に勉強になった。コロナを体験し、今回対面で研修ができたことで、認定後初めて同期の方と直接話すことができたり、研修やグループワークを通して他の施設の方々と知り合えたことも今後の活動に活かせる嬉しい報酬だと感じる。
- 普段自分の目にしていること以外の取り組みなどに対するアンテナの低さを知れたこと。
- 自身の認知症高齢者の見方を改めて考え、自己の内省振り返りができた。また同期や、近隣の方と繋がりができた。
- 意図が直接聞けたこと。自分の傾向を振り返るきっかけになったこと。仲間が増えたこと。
- 自分自身の見方の傾向を知ること、それが悪いことではなく日々の実践指導にも役立てられると思えたこと。自分の考えを言葉にして伝えられたこと、他の人の考えを聞けたことは良かった。コロナ禍で対面で話し合えることがなくなり、自分の立ち位置であることで感じる悩みを悩みとして出せることもなかったことが、患者さんやご家族も、大変でしたが、自分も辛かったです。今回対面だからこそ、ちょっとしたつぶやきのような貴重な意見も聞くことが出来たことは本当に良かった。
- 内容の理解が深まり、大事にすることを意識して行動するというコアの部分が自分のなかで固まってきた。
- ELNEC-JG で大切にしている考え方について、さまざまな検証がされていることや、教育手法としても検討を重ねられていることを知ることができた。
- JG について、込められた意図が理解できました。
- エンドオブライフケアのきめ細やかな視点を学び直す機会となり、ひとつひとつを妥協せずに伝えていく役割を強く認識しました。
- グループワークの中で、自身の課題や今後やるべきことを言語化することができた。講義やグループワークで多くの考え方に触れることができ新しい視点を感じる事ができた。
- これまでの経緯や作成の意図も知ることができ、これまで以上に理解が深まりました。これは ELNEC に限ったことではなく、日々の実践にもつながっていることを再認識しました。
- 参加者の皆さんとつながりができたこと。高齢者の尊厳を守り大切にしているケアをしている仲間がこんなにいるのだと感じたこと。
- 自分の偏見を押し殺して認められていなかったことが一番です。

## JG 指導者として何らかの不安に感じていることがあれば教えてください

(16 件の回答)

- 不安に感じていること、自分自身の理解、勉強不足。指導者の方々の熱意と抗議に取り組む姿勢に触れることができました。また、普段お話しする機会のない他の施設の看護師と交流が持てたことがとても楽しく、勉強になりました。
- この先にちゃんと講義できるかどうかは、不安です。たくさんCNさんがいて、話せる場面は貴重なものでした。
- これまでも実践してきたつもりだったが、理念を意識できていたか各モジュールの内容を自分の経験や知識に落とし込み、自分自身の言葉で理念を実践するために何を伝えるか考えることで、多職種と協働しながら看護の質に貢献したいと思えたことが良かった。実践できるかはトレーニングが必要であるため不安です。
- まだまだ自分の傾向とその傾向が指導者としてどの様に受講者へ影響を及ぼす可能性があるかまで考えられていないので、自分の考え方に興味をもっていきたいと思います。
- また今から頑張ろうという気持ちが強まりました。
- やってみたいとわからないが、じぶんにできるのかと言う不安。
- 指導者としての不安:スライドを読み上げるだけにならないだろうか。適切な事例が選べるだろうか、など。事前準備と振り返りをしっかりして、やっていくしかない、と、自分を鼓舞しています。
- 自分が講義ができるかという不安は完全には取り除けないが、いつでも援助してくれる指導者の方々がいるということを知れるだけでも、後押しになるし受講した意味があると思う。指導者の方々のようにファシリテートできるかにも大変不安が残るが、やりながら自分も学んでいけるよう努力していきたい。
- 自分にできるのだろうかという、漠然とした不安があります。自分で努力する事が重要だと思います。一生懸命頑張ります。
- 実際に講義する時、対象に合わせて言葉や事例が伝えられるか、イメージしやすいように現象を伝えられるのか不安です。
- 実習でクタクタになっていましたが、なんのために教員になったのか思い出しました。元気になりました。不安なのは、実際にやらないと自信につながらないと思います。
- 対面であったり、前向きな発言を浴びてモチベーションが高まりました。
- 不慣れという不安はありますが、理解を深めた上で他者評価を受けたり実践を重ねたりして、不安が少なくなればと思っています。
- 北海道の指導者の皆さんと連携できる機会を大事に、自分が担える役割があれば運営に参加できるよう尽力いたします。
- 未経験なので漠然とした不安があります。自分の力量以上の事をするのかもしれないと思います。

## 何でもご意見、ご感想があればお書きください

(16 件の回答)

- 1 日目は普通に講義を受講している感覚になってしまい、自分が講義をするという視点に全く立てずに終わってしまい、とても勿体無いと反省しました。2 日目になって、やっと講義をする上での心構えや準備、指導する側になる為の取り組み方を学ぼうと意識して講義を聴くことができました。講師の方々の講義をするまでの膨大な準備や、常に反省を繰り返しながらより良いものを作り上げていく姿勢に触れることができたことが多々も良かったと思います。また、高い志を持った他院の方々とお話しできる機会を持って、とても勉強になりました。
- 2 日間あつという間に感じました。プロジェクトメンバーの皆様が綿密な準備や雰囲気づくりのもとで進行してくださったからこそだと思います。
- PC 持参が推奨されていたが、使用する機会がなかった。
- 企画、運営のひとつひとつに担当された皆様の真剣さを感じ、また参加者を大事にお迎えくださる姿勢に感謝しかありません。コロナ禍による多くの制約の中でも何ができるのかと前に進む力を今回の対面研修でいただきました。
- 桑田さん、立原さんをはじめ、今回講師をしてくださった皆様に感謝を申し上げます。自部署での勤務を行いながら、研修の企画から運営まで行っていただき、誠にありがとうございました。

- 講師の先生方の講義、研修運営の際の思考過程を教えていただき、失敗も交えていただきながらわかりやすく教えて頂きありがとうございました。全てがロールモデルで学び多い研修でした。そして、丁寧な作成された講義資料は、研修参加者を大切にしていることを非常に感じました。私も少しずつ先輩方のように実践したいです。
- 今回、参加させていただき、たくさんの準備していただき、ありがとうございました。貴重な経験ができました。講義やその準備、知識や態度など、実際に経験していかなくは理解や体得することはできないことは多いのだと思ってます。その一步一步を踏み出すことを繰り返していきたいと思っています。
- 参加させていただき、ありがとうございました。講師の皆さん、参加者の皆さんが仲がよく、とてもうらやましく、高齢者のためのチームだと思いました。講師の皆様、準備はとても大変だったと思います、本当にありがとうございました。
- 自己課題と指導者像は、自分の中で不消化。研修が終わってからも、考えてます。今回、研修でやって終わる問題でもないので、ずっと、自分に問いかけて、考え続けていきます。
- 対面の研修が本当に久しぶりで楽しかったです。
- 本研修だけでなく、研修を企画運営する際に、どの様に考え、準備し実際に伝えるのかについて学びになりました。運営の方々の綿密な準備があってこそその2日間だったと、研修の隅々から感じる事が出来ました。計画から準備、2日間の運営のご苦勞を研修責任者の立原さんをはじめ、研修を担当して頂いた皆さんに感謝致します。研修を受けただけの人にならないように、自分に出来ることを一つ一つ積み重ねています。また、実践をアウトプットする事を意識して、人から評価してもらいたいと思います。
- 迷いが生じた時に、指導者の皆様の話の聞いたり、姿を見ると、目指すべき目標がはっきりします。私自身がケアされているというか、受ける側がポジティブになれたり、前に進もうと思えることが、これが教育なんだろうなと感じました。実際に指導者側になった時に、初めて苦勞、難しさを実感するんだろうなと思いますが、本当に2日間ありがとうございました。あつという間でしたが楽しかったです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
- 老年看護の集大成ともいえるプログラムを作成した高い志と、老年看護の実践の基盤を整備し、教育・普及まで検討が重ねられきたことが素晴らしいと思いました。参加させていただき、本当にありがとうございました。

(文責 高道香織)

